

# 仮墓について



●Answer

沖繩市・コザ山 球陽寺 前任住職  
帰依 龍照 (きえ りゅうしょう)



**Q** 20年前、2歳の娘を亡くしました。私は次男。当時、父から本家の墓(父所有)の敷地内に、仮墓を設置するよう提案されました。今でも父は、仮墓を承認してくれていません。最近、親戚のおばさんたちから「仮墓は3年しか置けないのに、あんなたちは20年も置いている。いつバチが当たってもおかしくない」とか「先祖代々の墓の向きと違う置き方だから、この子はトータビできていない」とか厳しく叱責されています。なぜ仮墓では、年数とか向きにこだわらるのでしょうか？

(Nさん・東京都・50代・男性)



**A** Nさん、さぞご心配でしょう。結論から申しますと、今回、沖縄の仮墓について、Nさんに大きなミスはないと思います。沖縄の仮墓は、真四角のコンクリートや大理石などで作られています。本墓(先祖代々の墓)に納骨することへの賛否の意見がある方々を、一時的(永久的の場合もある)に納骨する、やや小さめの仮設の墓のことをいいます。以前は、サイコロ型が主流でしたが、最近では、ファーファーバカ(破風墓)やテイラバカ(寺型墓)など、本墓に近いデザインも普及しているようです。

## 仮墓に納骨する事例とは？

【事例1】チョーデーカサバイ(兄弟重合)にこだわる場合、長男の家系は本墓に、独身ま

たは、後継者不在の次男以降の男性、またはその夫婦が亡くなったときは仮墓に納骨。

【事例2】タチーマジクイ(他系(家)混合)にこだわる場合、離婚の後、実家の名字に復姓(名前を戻すこと)をしていない女性が亡くなったときは仮墓に納骨。

【事例3】ユースー(幼少)にこだわる場合、数え7歳(3歳・9歳・12歳・13歳などの場合もある)以下の子どもが亡くなったときは仮墓に納骨。

事例を参考にしますと、Nさんご自身は次男、そのお子様は、当時、満年齢2歳・数え3歳ですので、いずれNさんがお墓を建立されるまで、お父様は仮墓への納骨を選択されたのでしよう。沖縄のしきたりを継承する、賢明なご判断かと思えます。

## 仮墓の設置年数は？

今回、親戚のおばさんたちがおっしゃる、仮墓を「3年しか置けない」との考え方は、お葬式の納骨後、喪中であることから、ウマチー(お祝い)の一種である清明祭を、ミーサー(新仏、喪中のウチナーグチの一種)が明けるサンニンチ(三回忌)終了まで行わないことと、墓に関係することから、混同されているのではないかと推測します。

しかし、仮墓は仮設という名称こそあれ、立派なお墓です。どのようなときでも、仮墓

には年数的制約はありません。これは、急いで未解決の問題に蓋をするのではなく、沖縄の仮墓はとても大切なものであることから、根本的な問題解決に繋げるため、充分な猶予期間を設けるためだといえます。

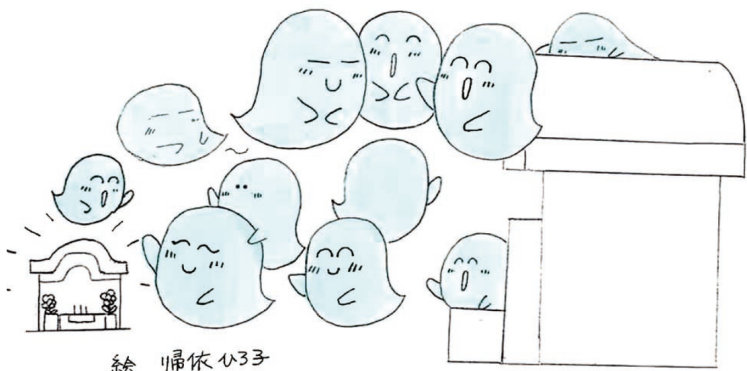
## 仮墓の向きは？

沖縄のしきたりに詳しい先輩方は、仮墓の設置のとき、本墓と仮墓が混同しないよう、本墓と仮墓を同一方向に向けないよう判断されることが多いようです。これは、本墓を敬う観点からのしきたりであるといひ、「ジョーミチ(門道:正面)を分かす」ともいいます。本墓の正面にハルウジョー(墓の門)がある場合、ハルウジョーの左手前角がハルヌウナー(墓の中央広場)の下座になることから、仮墓を右向きに設置する事例を多く目にします。

つまり、本墓を正面にすると、左角に仮墓があり、その向きは右側の中央に向かっているということと、その表向きの理由は、本墓を中心として、仮墓は間借りしているの、正面の向きが重ならないよう遠慮するという考えからです。しかし、これはあくまで表向きで、実際には、仮墓であつても、その右側にある中央のハルヌウナーを広く活用できるよう、

仮墓は右側に向けて設置する事例が多いというわけです。一見、「先祖代々の墓の向きと違う置き方だから、この子はトータビできていない」ように感じるかもしれませんが、実は、ユースーもトータビ(唐旅・成仏のウチナーグチ)できるよう、広い場所でも多くの方々が焼香やウサンデーでやるよう配慮された、心温まる沖縄のしきたりということになります。

今思えば、Nさんのお父様は、いろいろな人生経験の中から、幼くして先立たれた孫に、最善の供養をしてあげたいと仮墓をこの場所に設置されたのでしようね。Nさん、年数も向きも現状維持で大丈夫ですのでご安心ください。お父様のような素晴らしい父親に、お互いなりたいたいものです。



絵 帰依 433

帰依 龍照(きえ りゅうしょう)

1968年岡山県出身(51歳)／学歴:岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒／専門分野:哲学(宗教哲学)／コザ山球陽寺(京都創建・正嘉2<1258>年・沖縄移転・昭和36<1961>年)・第18代住職／沖縄県宗教研究会・理事長／沖縄県内にて年間多数の住宅・墓の起工式(地鎮祭)を担当しつつ、行政・企業・学校における「琉球・沖縄のしきたり」に関する講演活動を行う。娘1人と息子3人の父親。

【質問をお寄せください】年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。